

## 【小学生の部：会長賞①】

### 「わたしの大切な家族」

岩手県・花巻市立湯口小学校

3年 高橋 陽菜 さん

わたしの弟と妹は、どちらもしょうがいをもっています。五才の弟は、お話ができないし、耳も聞こえません。だれかのお手伝いがないと、一人でごはんを食べられません。自分で歩けないので、車いすにのっています。弟は、いでんしの病気で、体が不自由です。でも、足と手を使って前に進んだり、気づかないうちに一人ですわることができます。弟の一番すごいところは、いつもえがおでみんなをえがおにかえてくれることです。

二才の妹は、どちらの耳も聞こえづらく、上手にお話できません。でも、大きい声でしゃべったり、「ほちょうき」という、音を大きくして聞こえる物をつけると、聞こえるそうです。妹は耳が聞こえづらいけど、歌やおどりが上手です。

わたしは、弟や妹のお手伝いをしています。二人のことを、おふろにいれたり、服をえらんだりします。すこしたいへんだけど、ふつうの子ではできないことができ、わたしはとても楽しいです。お父さんやお母さんは、「ありがとう。」と言ってくれます。

でもときどき、弟たちがいないときに、「何をしてほしいんだろう。」と思う時があります。わたしは、たまにしか弟たちがやってもらいたいことがわからないことがあるので、これからはもっと、気持ちをはっきりと伝えたいと思います。そして、遠くに出かけられないことが多いです。弟は体が弱いので、いろいろなびょう気をもらったり、ほっさがおきたりかぜをひいたりしてしまいます。車いすにのると、スロープがないとかいだんみみたいなところでひっくりかえるかもしれません。それなので、まちやお店にスロープがふえたら、車いすの人たちにやさしいかんきょうになって、弟も出かけられるのになあと思っています。

わたしの弟と妹は花巻にある「イーハトーブよう育センター」というところに行っています。色々なしょうがいをもった子がいっぱいいるセンターは、楽しいところです。弟と妹はセンターに行くのを毎日楽しみにしています。わたしも、センターの行事などでしょうがいのあるお友だちと話したり遊んだりするとすごく楽しいです。だから、もっとたくさん行事に出て、センターのお友だちとなかよくなりたいです。

しょうがいがあると不自由だけど、とてもいきいきしているなあと思います。いっしょに遊んでいると、わたしもえがおになります。しょうがいがあってもなくてもしあわせというのは、みんな同じだなあと思います。

わたしにとって、弟と妹はとても大切な家族です。だから、かなしいこともたいへんなことも、いっしょにのりこえていきたいです。しょうがいのもった子どもたちがえがおで、くらしやすいまちになるように、しょうらい人をたすける仕事をしてみたいです。